

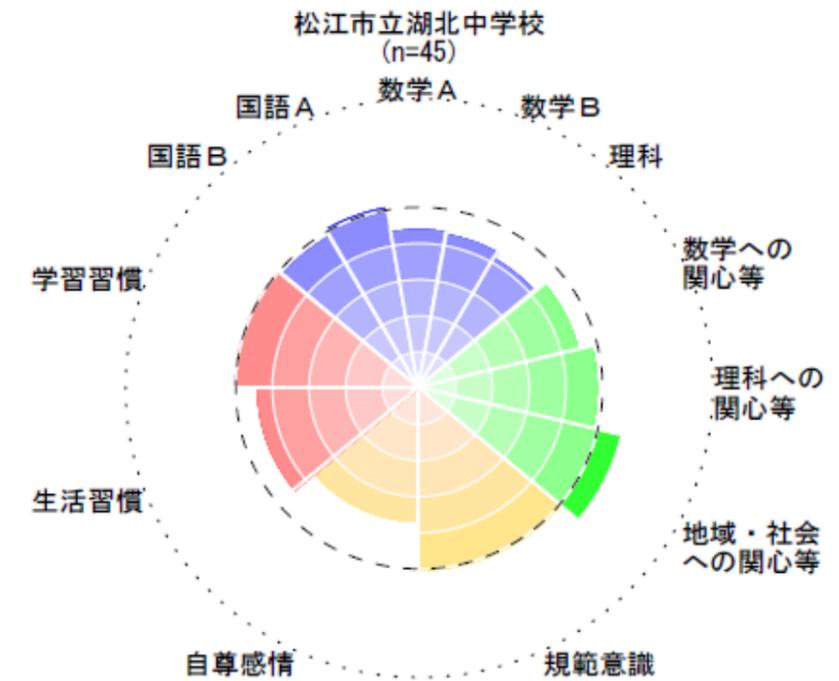
# 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立湖北中学校）

平成30年9月25日

(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
国語	A (基礎) ○話の論理的な構成や展開などに注意して聞くなど、聞く能力が特に高い。 ●段落の、文章全体で果たす役割を捉え、内容理解につなげるなどの読む能力に課題がある。	・授業の中で、文章の正確な読み取りを求める場面を多くつくる。 ・段落の内容や全体での役割を考える課題に取り組ませる。
	B (活用) ○登場人物の言動の意味などを考えながら読む力が身についている。 ●相手の反応を受け止めながら話を進めるなど話す力に課題がある。	・相手意識をもって話すことを授業の中で学び、ペアや班活動でも実践できる機会をつくる。 ・他教科とも連携を図り、人に話す場面を多くつくることで、相手の反応を受け止めながら話を進める練習に取り組ませる。
数学	A (基礎) ○数と式、文字式の基礎的な計算力は身についている。 ●どの領域も県、全国平均を下回っている。特に、図形の立体についての知識が定着していない。	・現在の学習内容と関連付けて復習問題に取り組ませる。 ・年間を通じて基礎・基本の練習問題に取り組ませる。
	B (活用) ○問題場面における考察の対象を捉えたり、グラフから必要な情報を読み取り解釈することは、比較的できる。 ●事象を数学的に解釈し、数学的な表現を用いて説明する力が弱い。	・ペアやグループ学習を取り入れ、言葉や図などを用いて互いに説明しあうことで表現する力を育む。 ・数学用語、数学的な表現を適切に使用することを指導する。
理科	○生物的領域の知識は身についている。 ●生物的領域以外の全てが県、全国平均を下回っている。特に、「知識」に関する問題が低く、知識が定着していない。	・基礎、基本問題に取り組ませて、知識の定着をはかる。 ・学習内容の復習や振り返りを適宜行い、知識が身につく指導を行う。

(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



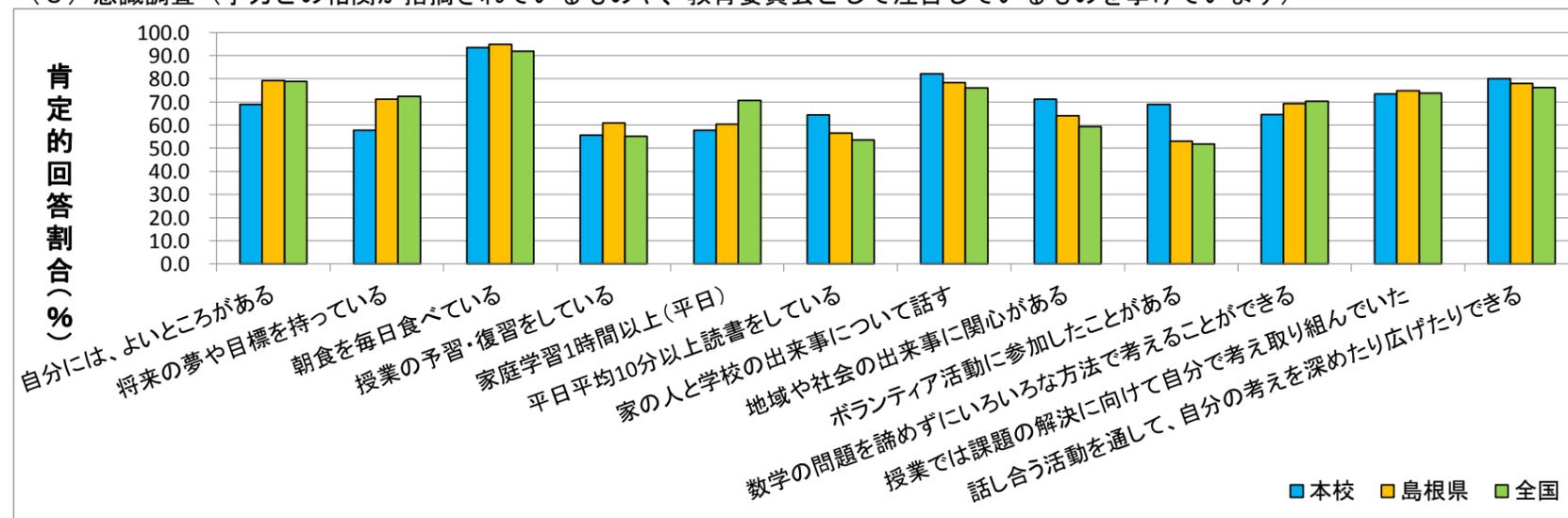
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
○家族に学校や友人の話聞いてもらうなど、家族とコミュニケーションが取れている。 ○地域や社会に関心をもち、地域の行事やボランティアに積極的に参加している。 ●自分のよさに気づいてない生徒が多い。 ●将来の夢や目標をもっている生徒が少ない。	・体育祭や合唱コンクールなど、行事が終わったときには振り返りをし、その中で自分のよさに気づけるような項目を入れたり、他者から評価してもらえるような場面をつくる。 ・職場体験や地域で働く人の講演会、マナー講座など社会とのつながりを意識できる場面をつくり、将来の夢や目標を考える手助けとする。

(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・各教科において、ペア学習やグループ学習を実施している。主体的な学習の充実に向けて、今後さらに効果的な活用を工夫していきたい。  
・進んで問題解決に向かう態度を育てるため、総合的な学習の時間の充実に取り組む。  
・家庭学習の時間を確保し、生活リズムを確立するため、保護者とも連携してメディアコントロールに力を入れる。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

○平均正答率 (%)		本校	松江市	島根県	全国
国語	A	76	76	76	76.1
	B	60	61	61	61.2
数学	A	60	65	64	66.1
	B	40	46	45	46.9
理科		60	65	66	66.1

受検者数 63人  
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。